

5月頃から市内でのツキノワグマの目撃が続いています。しかし、痕跡は昨年の秋から人家に近いところで確認されていました。これまでのクマの行動パターンと異なり、林道、遊歩道を移動している痕跡で、点々とつながる痕跡を地図に落とし込むと、その移動経路がなんとなくわかります。

多分、市道山から刈寄山を経て下りてきたと思われます。これまであきる野で見てきたクマは林内を移動するクマがほとんどで、道路は横断する程度の利用でした。

この痕跡は、前足で立ち木や電柱などにもたれかかり、後ろ足で立ち上がって周りを見回しているような痕跡だと思われます。そのため爪痕や肉球で幹を擦った痕とかが頻繁に見られます。

臆病なクマが、初めてやってきた場所で、警戒しながら立ち上がってキョロキョロしながら移動していると思われる。土地勘のないクマはどこから来たのかと疑問が生まれます。

これも、単なる想像ですが、数年前から神奈川県相模原や山梨県道志などでナラ枯れが広がり、この地域でドングリに依存していたクマが餌を探しながらあきる野まで来ていると思っています。

また、五日市地区では親子のクマの目撃も複数回あります。これは西多摩のクマだと思われます。7月前後はクマの交尾期で、オスのクマはメスを探してうろうろします。この時、子育て中のメスグマは発情しないため、オスは子グマを殺して、メスの発情を促すことが報告されています。青梅、奥多摩辺りに強力なオスグマが侵入してきたため、子持ちの母グマが市街地に近いところまで避難してきているとも考えられます。

野生動物のことは、正確には分かりません。杉野の想像の域を出ない話ですが、季節が変わるとクマの採食行動も変わるため、それぞれのクマは森に帰るのではと思っています。

(杉野)



ヒノキについたクマの肉球の跡